

巻頭言

植物防疫業務に携わって

秋田県病害虫防除所 にい新 やま山 とく徳 みつ光



私たち植物防疫に関わる者にとってのバイブルとも言える「植物防疫」の巻頭言の執筆を依頼され光栄に思う反面、私に何が書けるだろうかと思ひ悩んだ。依頼された当時の立場を鑑みれば、県における植物防疫業務の実務上の諸課題やその解決に向けた取り組み、今後の展望などを述べるべきかとも考えた。しかし、それらは諸先輩の方々がすでに縷々述べられているので、本稿では、これまで携わってきた病害虫の試験研究と病害虫防除所勤務の中で経験した、一般にはあまり話題にならないいくつかのエピソードについて触れてみたい。

病害虫防除所では農薬取締法に基づく農薬の安全使用指導や農薬販売店に対する指導・取締等の業務がある。その担当班長をしていた当時、農薬製品のラベルや農薬メーカーが作成している製品ガイドに必ず記載されているある文章が目とまった。「本剤の使用に当たっては、(中略)特に初めて使用する場合には、病害虫防除所等関係機関の指導を受けることが望ましい。」前述のとおり確かに病害虫防除所は農薬使用者に対して安全使用指導を行っているが、それはあくまで一般的な指導であり、何百何千とある個別の農薬使用について細かく指導することは物理的に不可能である。これはおかしいと思ひ、いろいろ調べると農薬取締法の第27条に、「農薬使用者は、農薬の使用に当たって、(中略)農業改良助長法に規定する普及指導員若しくは植物防疫法に規定する病害虫防除員(中略)の指導を受けるよう務める」とあった。この「病害虫防除員」がどこかで「病害虫防除所」と読み換えられたのではないか、というのが私の推測であった。詳細は誌面の都合上割愛するが、農薬メーカーはもとより農薬工業会や農林水産省の担当者に直接疑問をぶつけ、文言の修正を提案した。ある程度は理解していただいた感触はあったものの、結局その表現は変更されることはなく現在に至っている。

農業試験場では多くの新農薬実用化試験を担当させていただいた。近年は多様な施用技術が開発されており、その中に水稻における側条施薬機による粒剤施用の試験があった。本技術は、主に殺虫殺菌粒剤を水稻の移植と同時に専用の施薬機で側条施肥の施肥位置に処理する方法で、施用量は10a当たり1kgである。薬剤の繰り出し量はダイヤルで調節するが、薬剤の粒形や大きさは様々なため、規定の施用量を超えないように調整しなければならない。ところが、私が担当したある薬剤は、製

剤の粒径が小さく、繰り出し量を最小にしても規定量を超過してしまった。これは依頼元の農薬メーカーもある程度把握していたことである。対象害虫に対する防除効果は申し分なかったが、そもそも施用量が規定量を超過することは農薬取締法違反に当たる可能性が高い。そのため、私はその観点から「実用性なし」の判定を下した。成績検討会ではこのような説明を行ったが(当時は新型コロナウイルス禍によるリモート開催のため十分な議論が難しかった)、最終的には「実用性あり」としつつ、上記の懸念を付記することで決着した。この事例のように施用技術とセットになっている農薬の実用性評価においては、生産現場での実際の使用を十分に考慮する必要があると思う。

これまで私が経験した害虫の大発生事例として、研究テーマとして取り組んだアカヒゲホソドリカスミカメのほか、アワヨトウやニカメイガ、トビイロウンカ、イネヒメハモグリバエ、タマナヤガ、ツヤアオカメムシ等がある。なかでもイネヒメハモグリバエは病害虫防除所勤務時に経験したため、県内全域の発生状況を精査することができた。被害は沿岸部で大きく内陸部では小さいこと、また沿岸部の中でも水稻の移植時期が早い圃場ほど被害程度が大きいことがわかった。本虫はこれまで20~30年周期で大発生を繰り返していて、移植時期前後の低温条件で突発的に多発し、被害の進行も早いいため迅速な対応が求められる。これを機に過去の文献を紐解いたところ、北海道・東北は勿論のこと北陸、東山、北関東および近畿の北部等広範な地域で大発生した1954年の調査研究記録に行き着いた。膨大な各地の発生記録が詳細にまとめられた素晴らしい文献であり、読み進めると本県で大発生した状況と酷似しているばかりか、発生生態や発生要因に関する解析など、今なお大変納得させられるものであった。今更ながら過去の文献の有り難みを感じるとともに、先人の多大なるご努力に深い敬意を表したい。

植物防疫分野は多種多様な作物と病害虫、そして農薬の組合せの数だけ課題が存在する。それだけにとどまらず、作物生産や農業経営、環境保全、農村振興、さらに国内・国際情勢とも密接に結びついている。狭いようでいて、実は極めて幅広く奥の深い分野である。今後もさらに研鑽を積んでいきたい。

(秋田県病害虫防除所 元所長)